

再任用・会計年度任用職員部ニュース

No. 345
2021.11.17

東京都公立学校教職員組合（東京教組）
再任用・会計年度任用職員部
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 2F
TEL. 03-5276-1311 FAX. 03-5276-1312

再任用・会計年度職員部 秋の交流会

「八王子歴史散歩 絹の道をたどる」開催



「絹の道」の石柱をバックに 全参加者で

11月7日(日)、部会秋の交流会が開かれました。これまで区内の歴史史跡や名勝を訪ねての「歴史散歩」を行ってきましたが、今回は初めて多摩地域 八王子での開催となりました。八王子といえば「桑の都＝絹織物」ということで、明治期に生糸を輸出品として、八王子から横浜まで運んだ道の一部を歩きました。

京王線北野駅から大塚山公園（八王子鍮水やりみず）の下までバスで向かいました。うす曇りの天候でしたが、次第に日差しもみられ、山の色合いが秋を感じさせる絶好の日和となってきました。

バス停前の山道（階段）に、少々不安を感じた方もいたようですが、登りはほんの5分。すぐに「絹の道」との出会いでした。山頂にある「道了堂(どうりょうどう)跡」への石段の脇に「絹の道」と書かれた石柱がおかれています。

石柱を背景に記念写真を撮ったのち、当時の様子がしのばれる「絹の道」を1キロほど歩き、「絹の道資料館」に向かいました。

この「絹の道資料館」は、「絹の道」という名で呼ばれる横浜までの街道と、幕末から明治にかけて活躍した「鍮水商人（当時の生糸商がそう呼ばれた）」がどのような背景で生まれ、どのように推移していったのかをパネル展示などで紹介している資料館です。「鍮水の石垣大尽」と言われた八木下要衛門の屋敷跡に「絹の道」の中心施設として、1990年に八王子市が開館させました。

資料館見学後は、晴れあがった秋空に山や田畑がひとときわ映え、鍮水の心地よい散策となりました。寄進された石灯籠がならぶ「諏訪神社」、「御殿橋と古道の道しるべ」、茅葺き屋根が美しい「小泉屋敷」、八木下要衛門の屋敷を本堂として移築した「永泉寺」と鍮水の史跡を訪ねる歴史散歩となりました。当時の鍮水商人たちの隆盛を、残された建造物や碑文などでしっかり確かめることができました。

今回のトピックス。トロイの遺跡発掘で著名なハインリッヒ＝シュリーマンが、江戸幕府統治下の1865年6月に、馬に乗って横浜一町田一八王子を訪れています。

絹の道を歩いて

部長 鈴木 達哉（板橋区）

11月7日（日）、東京教組再任用・会計年度任用職員部恒例の秋の交流会が、今年は「絹の道をたどる」をテーマに、八王子で行われました。スタートのころは曇り空でしたが、次第に青空が広がり、小春日和の中、生糸商人たちがたどった道をのんびり歩きました。

カイコといえば、卵から繭になるまでの成長を観察するという理科での出会いが小学校では一般的です。卵からふ化し、盛んに桑の葉を食べ、脱皮を繰り返して5令になったら繭を作り、成虫（カイコ蛾）になります。繭をお湯につけて糸（生糸）を取る実践は、以前はよく聞かれましたが、最近はどうでしょう。「学習指導要領にない」などと窮屈なことをいう方もいますから、難しくなったのでしょうか。「絹の道資料館」を見学している時には、カイコの卵や桑の葉の入手方法、人工飼料の話まで、自分はこんな風にカイコを育てたという体験談が聞かれました。

カイコが作る繭から取れる生糸は商品です。幕末から明治にかけて、日本の貴重な輸出品でした。映画「ああ野麦峠」では、生糸を生産する製糸工場で働く女工たちの過酷な労働が描かれています。八王子は、江戸時代から生糸の集散地だったといえます。幕末に横浜が開港すると、関東近県から集まった生糸や絹織物を40km先の横浜まで運ぶ中継地点となります。地元の鎌水（やりみず）地区に住む商人たちが、生糸や絹製品を盛んに運んだのが「絹の道」でした。

今年話題の渋沢栄一も養蚕農家の出身です。明治の初めには、これも貴重な輸出品だったカイコの蚕卵紙（さんらんし）の値崩れを防ぐために、横浜で焼き払って価値を高めたというエピソードが大河ドラマでも紹介されていました。



木立の中を 往時のままの街道を歩く

「絹の道」は、木々に囲まれた山道で、所々に石を敷きつめた跡があり、当時の人達が馬や荷車で行き来したのだろうとにぎやかにおしゃべりしながら歩きました。その後、鎌水商人の隆盛ぶりが現在も残されている「小泉屋敷」や「永泉寺」などを見学しました。何箇所かでは、長い石段を上り下りし、八王子が丘陵地帯にあることを実感させられました。「鎌水」という地名は、湧水が豊富で、槍のようにとがらせた竹を斜面に打ち込むだけで水が得られたというのが、地名の由来だそうです。

見学も一段落し、たくさん歩いてお腹もすいてきたころにレストラン「きっちんなかやま」に到着。ビールでのどを潤し、素敵なコースランチを食べながら、お互いの近況などを報告し合いながら楽しく交流できました。今回の充実した企画を考え、詳細な資料も作って下さった部員の水谷さんと、秋の交流会のために8月に現地踏査をしていただいた東京教組八王子支部の方々にお礼を申し上げたいと思います。

八王子歴史散歩 「絹の道をたどる」に参加して

江戸川 飛田 邦子

好天に恵まれた11月7日、八王子の水谷さんの案内で、「絹の道 歴史散歩」に参加しました。

京王線北野駅前からバスに乗って出発。バス停北野台3丁目で下車、2時間余りの散策が始まりました。

大塚山公園の長い階段を四苦八苦して登った先には、八王子の街を眺望できる絶景スポットが待っていました。その後も、紅葉した木々を愛でながら、未舗装の「絹の道」の里山歩き。道了堂跡や資料館、諏訪神社などでは、水谷さんの名ガイドに誘われて、江戸時代幕末から明治にかけて歴史探訪。二つのことを満喫した一日でした。ランチも美味しかったです。年号まで正確に説明して下さった水谷さんをはじめ、夏の暑い盛りに実踏をして準備して下さった八王子の皆さんに感謝・感謝です。ありがとうございました。

八王子やりみず鑓水の木材がお台場造営にも使われた

大田 森谷 憲光

私の自宅近くの空港線大鳥居駅から京王線北野駅までは、電車の乗り換えを重ねおよそ90分ほどかかり、「随分遠くまで来たものだ」と思いました。里山の美しい景色を見ながらの「絹の道をたどる」秋の交流会は、とても意義深いひとときとなりました。

江戸時代末期に「お台場」を造営するための大量の木材が、八王子鑓水からも運搬されていることをフィールドワークで知ることが出来ました。全行程を陸路だけで運搬するのは大変な時代です。荒川の筏流し、多摩川の筏流し等は、よく知られており、直ぐに「筏流し」を連想しました。「筏流しなら、どの河川を使ったのだろうか」という疑問が湧きました。

《鑓水からどのような経路で大量の木材を運搬したのでしょうか》

その疑問を解明するために、さっそくフィールドワークの途中、携帯していたスマートフォンのインターネットで検索してみました。鑓水で伐採された木材は、陸路で町田を通り相模川に材木を落とし、小倉の渡しから平塚までは帆掛け船に丸太を積んで行き、平塚からは船を積み替えて「お台場」まで運んだという記録が残っています。この行程での大量の木材の運搬も一大事業には違いありません。

秋の交流会で、毎年都内各地のフィールドワークを通してその地の歴史や文化、暮らしを理解することで、自分自身の出生地や居住地、勤務地等の地域学習を深めるきっかけにもなるのではないのでしょうか。

色づいた樹々を楽しみながら

元部長 城田 純生 (多摩)

久しぶりの交流会参加でした。少し肌寒いかなと思われる陽気でしたが、途中から上着を1枚脱いで行動でした。

集合場所からバスで揺られながら北野台3丁目に到着。そこから歩き出します。始めに大塚山公園の山頂にある「道了堂跡」に向かいます。コロナ禍であまり身体を動かしていない身には階段がかなりきつかったです。落葉が始まっていたので、山頂からは八王子の市街がよく見渡すことが出来ました。「道了堂跡」からは「絹の道」を下り、色づいた樹々を楽しみながらゆっくり歩きます。絹を運ぶ荷車のために、道に石を敷き詰めたそうです。今でいう舗装道路でしょうか。

「絹の道資料館」は山道を下り切ったところにありました。鑓水商人と言われる生糸商人の活躍ぶりを展示してありました。小学生にも分かるような展示の工夫がされていて興味深く見学できました。その後「諏訪神社」や「小泉屋敷」や「永泉寺」を見学し史跡巡りの後のレストラン「キッチンなかやま」

ではフレンチを頂きながら、暫くぶりのアルコールも口にし、楽しいひと時を堪能しました。八王子の皆さんありがとうございました。

交流会の意味や価値を再確認

八王子 末光 美智子

コロナ禍でいろいろな集まりや会合が中止される中、やっと光明が見えてきた今日この頃、この集まりができたことが、まずすごうれしかったです。

また「身近な地域を知るために出かけよう。」というサブタイトルもとても心に響きました。何年も勤めているのに知らないことだらけの八王子。歴史散歩ということで焦点化されて、さらに八王子に興味がありました。明治からの日本の経済的復興を支えた生糸の生産と輸送がよみがえる「絹の道」素敵な名前だと思いました。

私は8月の終わりに水谷さんと一緒に歩いて2度目だったので、地理も見学場所もさらによく理解できて楽しかったです。11月という時期もとても良かったと思います。清々しい秋の空気の中を気持ちよく歩くことができました。木の葉も落ちて、大塚山公園の見晴らしの良さが実感でき当時の様子を想像しました。

何より「キッチンなかやま」での交流会が良かったです。参加者の皆さんの近況がうかがえ、仕事を適度にこなしながら楽しく暮らしていらっしゃる様子をお聞きして、皆さんが輝いて見えました。最近テーブルを囲んで食事をしたり、話しをしたりすることができなかつたので、こういう会の意味や価値を再確認しました。話しは尽きない雰囲気でしたが、あっという間に時が過ぎ、バスの時刻になってしまいました。

今回八王子に来てくださった方々にも感謝しています。また違う地域での企画があったら参加したいなあと強く思いました。

歴史の一端を垣間見ることができて良かった

八王子 倉澤 園恵

八王子に住んで40年。市内勤務も30年以上になりますが、市の南側は不案内でした。今回の歴史散歩により、改めて八王子の歴史の一端を垣間見ることができて良かったです。桑都八王子の商人たちの意気込みが伝わってきました。もともとは丘陵地帯であったところに道を作り、八王子の中心地で作られたり集められたりした絹織物や生糸を港横浜まで運んだ名残をたどり、往時を偲びました。資料館や永泉寺などの建物も鑑水絹商人の威光を感じることができました。その中で起こった困民党の事件なども、水谷さんの案内で知ることができました。本当にありがとうございました。そして、遠く八王子まで足を運んでくださったみなさんに感謝したいと思います。この外出もままならぬときに、みなさんと元気に歩き通せたこと、打ち上げも楽しくできて、本当に良いことづくめでした。